



川内市医師会は、薩摩川内市と受託契約を結び、在宅医療推進事業に取り組んでいます。在宅で医療や介護が必要になっても在宅医療を受けながら最期まで自分らしい生活をする「在宅医療」という選択肢を知っていただくために、在宅医療支援センターの活動や医療・介護職の取り組み・在宅で役に立つ豆知識などの情報を発信します。

## ★☆☆いいせんリンク (バイタルリンク) 活用状況

川内市医師会では、平成31年4月より多職種連携情報共有システム「バイタルリンク」を導入し、多くの方に活用していただいています。利用者の情報や思いをタイムリーに共有することで、サービス提供や意思決定を支援する一助となっています。



### いいせんリンクとは？

いいせんリンクは、ICTを用いた連携ツールです。医師をはじめ、利用者に関わる専門職でグループを作成します。

### 主な機能

- 患者情報の共有
- タイムリーな情報共有 - 「連絡帳」機能
- バイタルや患者状態データのグラフ化
- おくすり情報
- カレンダー機能

使用料は無料  
(医療機関で患者登録業務などを行う場合は、有料)

### 登録事業所数(市外含む)

事業所種別	登録数(事業所数)
医療機関	15
歯科医院	3
薬局	13
居宅介護支援事業所	22
地域包括支援センター	1
訪問看護ステーション	11
訪問入浴	2
訪問リハビリ	2
訪問介護	6
通所事業所	16
福祉用具	4
小規模多機能ホーム	1
ショートステイ	5
グループホーム	1
有料老人ホーム・サ高住	5
その他(義肢装具製作所、在宅歯科医療推進室、障害デイ)	3

### 利用端末

- PC Win/Mac
- ipad
- Android タブレット
- スマートフォン (iphone/アンドロイド)

端末は各事業所で準備をお願いします

## 令和元年度 啓発活動(出前講座等)実績報告

令和2年5月現在  
合計 **110** 事業所が登録!  
毎月 **増加中!!**

昨年度は、合計1,174名の市民の方々へ啓発することができました。(内訳)

- サロン・老人会：552名
- アドバイザー研修会：258名
- その他イベント(相談ブース設置)：364名

出前講座は、随時受け付けております♪



### 出前講座 内容例

- 在宅医療とは?
- マイライフノートの書き方(人生会議)
- 高齢者施設の種類について
- 健康講話 など

川内市医師会 在宅医療支援センター

TEL:0996-22-4021 FAX:0996-22-8114

薩摩川内市歯科医師会 在宅歯科医療推進室

TEL:0996-22-0014 FAX:0996-22-0015



在宅医療の相談窓口

気軽にお電話ください

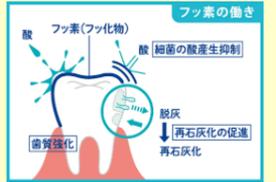


## 「すべてのライフステージでフッ化物応用を始めましょう!!」

皆さんは「むし歯予防にフッ素(フッ化物)がよい」と、どこかで聞いたことがあると思います。薩摩川内市の健診や歯科医院など幼児がフッ化物を歯に塗ってもらう(フッ化物歯面塗布)、保育園や幼稚園または小中学校といった集団で行うフッ化物水溶液でのぶくぶくうがい(フッ化物洗口)、最近では家庭などで使われる歯磨剤のほとんどにフッ化物が入っている(フッ化物配合歯磨剤)など耳にしたことがあるかもしれません。

### 「フッ化物の効果」

- ①むし歯菌の働きを弱め、歯を溶かす酸の生産量を減らす。(酸の産生を抑制)
- ②歯垢により、歯から溶け出したカルシウムやリンを歯に再び沈着させる。(再石灰の促進)
- ③歯の表面を、酸に溶けにくい性質に変える。(歯質の強化)



乳歯や永久歯が生えてくる時期(幼児～中学生)に積極的にフッ化物を応用すると、むし歯予防の効果が高まります。薩摩川内市では、永久歯のむし歯予防のため平成24年度から公立小中学校でのフッ化物洗口を県内でも先駆的に始め、現在では鹿児島県の1人当たりのむし歯数の平均を下回るまでの成果が表れてきています。また、成人から高齢者にかけて歯周病などによって歯ぐきが下がり、歯ぐきで守られているはずの根元が露出することでしみたり、むし歯になっていく「根面むし歯」が多発してきますが、この根面むし歯の抑制にもフッ化物の応用が効果的です。

よって、すべてのライフステージでフッ化物応用を実施していきましょう。



(文責：薩摩川内市歯科医師会 重田 浩樹)



## 特定非営利活動法人 鹿児島県認知症グループホーム連絡協議会 です!

鹿児島県内5支部に分かれて、グループホームの職員を対象にした研修を中心に活動しています。

看取りケア

認知症ケア

コミュニケーション

永利  
コミュニティ祭  
意思決定を  
テーマにした  
寸劇仲間です



ノーリフト

意思決定支援

地域連携

グループホームなどの介護保険事業所では、施設における看取りができるよう研修会を積み重ねています。まだ看取りに対応していない事業所もありますが、入居当初から「看取りケアの同意書(重度化した場合の指針)」について事前指示をいただけるよう働きかけます。人生の最終幕でご利用者やご家族と一緒に過ごせる時間は、介護看護専門職として大きな学びとなります。その時に医師や歯科医師、薬剤師、看護師という医療職の方々やチームとして力を合わせられると、自信にもつながります。

認知症によって長い時間かけて築き上げた関係性が崩れ、居場所がなく、誇りを失いつつある利用者の方々…。最後の望みは「息子と甕島に行きたいなあ」そんな社会参加を目標に、お互いが力を出し合って我慢も楽しみながら生活を営む場所がグループホームです。

「ここがどこかよくわからないけど優しい人がたくさんいるなあ。家族は時々来てくれるみたいだ。歳をとって家族に迷惑かけないようにここでこの人たちと楽しく暮らすか」と前向きに自己決定してもらえるように、日々利用者の方々とうき合っています。 鹿児島県認知症GH連絡協議会 理事長 古城順子

在宅医療支援センターより ご協力よろしくお願いします。

高齢者施設および障害者施設における看取り等の現状調査：締切：6月19日(金)

在宅医療提供状況調査 7月下旬発送予定! 対象：医療機関・歯科・薬局・訪問看護ST・訪問リハビリ

ホームページにて、活動報告や資源情報などを掲載しています。ぜひご覧ください! いいせんネット 検索

